

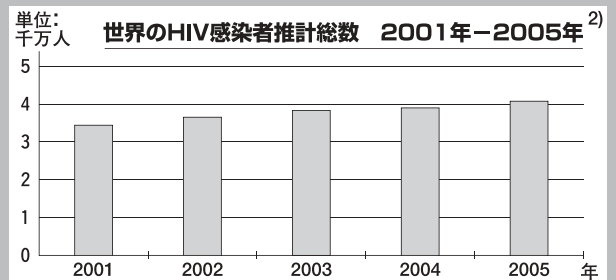
HIV/エイズの世界적인状況と子どもや家族に与える影響

世界の子どもを取り巻く状況は、さまざまな分野で進展が見られています。しかし、こうした成果も、「貧困」、「武力紛争」、「エイズ」という3つの大きな“脅威”のために危機に晒されている状態です。この3つの“脅威”の中でも、特にHIV/エイズに関する対策は遅れています。HIV/エイズから子どもを守るためには、世界のHIV/エイズの現状や、子どもの一生に及ぼす深刻な影響について理解することが必要です。

増加するHIV感染者¹⁾

世界のHIV感染者は年々増加しています。2005年には、HIV感染者が4,000万人を超え、そのうち230万人が子どもと推計されています。

2005年の1年間だけでも、490万人がHIVに感染しており、そのうち子どもの感染者は54万人にのぼっています。また、2005年にエイズを発症し、亡くなった人は490万人。そのうち38万人が子どもでした。数字からも状況の深刻さがわかります。

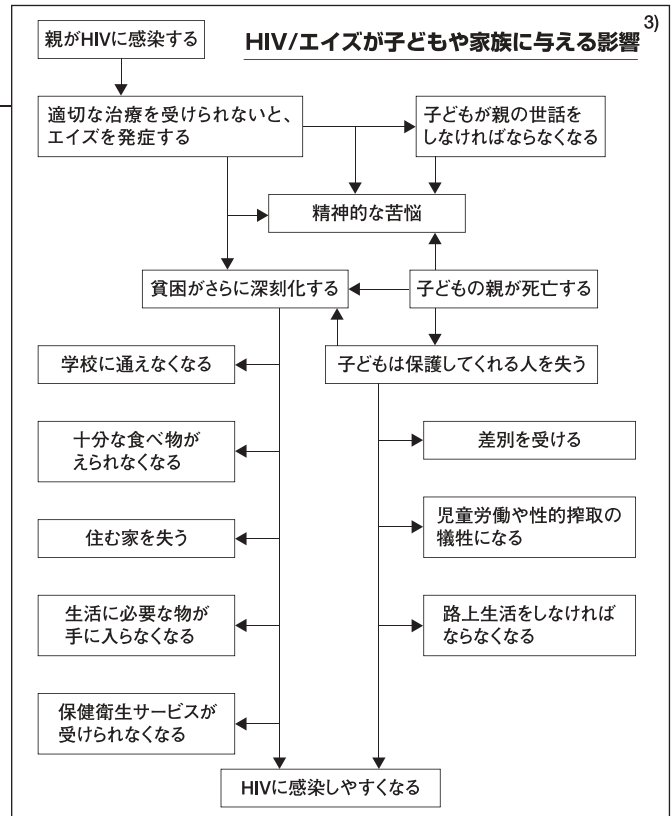


HIV/エイズが子どもや家族に及ぼす影響の悪循環

親がHIVに感染し、エイズを発症すると、その子どもに及ぶ影響は非常に大きいものとなります。子どもを世話するはずの親が重病になったり、命を失ったりすると、子どもは保護してくれる人を失い、経済的な支えを失って学校をやめなければならないこともあります。さらに、食べ物や住む家にも困るようになり、保健や医療サービスを受けられなくなったりします。

こうしたことによって子どもが差別を受けるようになり、児童労働や性的搾取の犠牲になり、最後には子ども自身もHIV/エイズになってしまう場合もあります。右図のような‘悪循環’におちいると、そこから抜け出すのは容易なことではありません。

子どもたちが健康で安全な生活を送ることができるように、国際社会がHIV/エイズの予防対策に取り組むことが早急に求められています。



1) 数字(推計)はUNICEFおよび国連合同エイズ計画の資料を参照。

2) 国連合同エイズ計画(財団法人エイズ予防財団訳)『HIV/AIDS最新情報(2005年末現在)』(2005年)2頁掲載のグラフを参考に作成。

3) UNICEF発行 “The Framework for the Protection, Care and Support of Orphans and Vulnerable Children Living in a World with HIV and AIDS” (2004年7月) 8頁掲載の “Problem Among Children and Families Affected by HIV/AIDS” を参考に作図。